

今月のことば ～「型」を身につける～

京都教会長 佐藤益弘

師走を迎えました。「光陰矢の如し」といわれます。一日一日を大切に過ごして参りたいと思います。

さて、機関誌『佼成』12月号では、会長先生から、「『型』を身につける」というご法話をいただきました。

冒頭において、「柔道や剣道などのスポーツ、また芸術や芸能の道で、手本となる体勢や動作のことを『型』といいます」とお話しくださっています。さらに日常生活における身近な「型」として、約束の時間を守る、朝、家族に「おはよう」の挨拶をする、はきものをそろえる、呼ばれたら「はい」の返事をするというものがあると教えてくださっています。また、立正佼成会においては、合掌・礼拝、朝夕の読経供養、法座、「まず人さま」の実践も大切な「型」であるとしてご指導いただきました。これらのことを真心込めて繰り返すことで、思いやりや慈悲の心で生きることが叶うものと私は受けとめました。

先月21日の朝のことでした。近畿支教区の教会長会議が福知山教会で開催され、前日から福知山市の温泉宿に泊まらせていただき、翌朝もお風呂に入らせていただきました。丁度、舞鶴教会の野田頭正浩・教会長さんと一緒に風呂場から出たそのとき、野田頭教会長さんが、「ああ、いい湯だ！」と感嘆の声を発せられたのでした。入浴後によく聞かれる一言ではありますが、こういう言葉は思いやりの心がなければ出てこないものだと思います。温泉に対する有り難うという感謝の心、いい湯加減であったと…まさに「型」が身につけいらっしやるのだと思いました。そもそ

も、温泉に入るといことは、身体を温めると同時に、心も温めるのが本当の入り方なのではないかと、気づかせていただいた次第です。

今、この原稿を作成している東海道新幹線の車内での「今日も、新幹線をご利用くださいます、有り難うございます」という女性のアナウンスが流れています。これなども、決まり文句で、何年も変わっていないようです。しかし、常套句であっても落ち着いた、優しいお声で、決まったタイミングでご案内くださるからこそ乗客も安心していただけるのだと思います。やはり、「型」はすごく大事だと実感しています。

本部・大聖堂の式典を、時間を重視する点から見ますと、式次第という「型」が整っているように思います。奉献の儀の後、読経供養、体験説法、ご法話やご講話という「型」ができています。この「型」があるお陰で、式典が流れるように進行し、荘厳さを保ちつつ、ご法の悦びを味わえるのです。また、空間を重視点から見ますと、何といたっても会長先生からご法話を頂戴するとき、必ず本部に参拝されている教会、そして、大聖堂当番、聖壇当番、交通係としてご奉仕くださっているお役の方々をご紹介いただきます。このことにより、ご本仏さまの御前で、お師匠さまのお慈悲を有難く感じ、且つ同信の仲間との一体感を醸し出して頂けます。会長先生の「型」のお蔭さまで。

今月は平成29年の締めくくりの月です。「ああ、いい一年だった」と感謝の言葉を発して新年をお迎えしたいと存じます。

合掌

法座席照明点灯式 ～LED化でさらに明るく～

11月1日、ご命日式典の前に法座席照明点灯式が行われました。約1ヶ月間、照明をLED化するための工事が行われ、この日、無事終了したことをうけ、朔日参り・布薩の日の式典に臨む会員が参加しました。

点灯スイッチを佐藤教会長はじめ、管理主任、防災センター職員のほか、支部長、壮年部、青年部、会員代表らが押すと今まで以上の明るさで法座席を照らし出し、歓声と共に大きな拍手に包まれました。佐藤教会長からは今まで1208本（成道会と同じ数字）の蛍光管から594本のLED管になり、ご供養（594）をさらにしっかりさせて頂こうということだと受け止めましたと述べました。



七五三式典 ～大きく育ってくれたことに感謝～

11月12日、七五三式典が法座席で行われ、対象となる41名の少年部員をはじめ、ご家族や支部の会員さんなど多くの参拝者がありました。

読経供養の導師に壮年部長が、鐘、木柁、太鼓は少年部員、青年部員が務めました

戸田教務部長は佐藤教会長から頂いたお言葉の中から、七五三の行事は死亡率が高かった時代に三才、五才、七才まで育ってくれたことに感謝したことに始まると解説。命があることに感謝し、また手足が動いたり、話すことができたり、すべてに感謝出来ることが大切だと述べました。

その後、七五三参加者を聖壇上で支部ごとに紹介す



ると、会場からは温かい拍手が送られました。最後に各支部長から千歳飴の授与があり、もらった子供たちは笑顔であふれました。

式典後はユニセフ募金に頑張ってくれた少年部員にメダル授与を行い、また青壮年部を中心に纏、万灯披露を行い七五三式典に華を咲かせました。



お会式・一乗まつり ～雨天の中での行進でも心晴れやかに～

10月15日、ご本部周辺で「お会式・一乗まつり」が行われ、京都教会青年部も渋谷教会のグループに参加しました。本会発祥の地・修養道場から法輪閣駐車場までを練り歩く「一乗行進」に、本部班、国内外の支教区、教会など、41隊・約7000人で構成。京都は纏・鳴り物で参加するメンバーや支部長を中心に応援するメンバーで参加しました。大聖堂の会長先生の前に来るとひととき大きな声で日頃の成果を発揮しました。

当日は雨模様の中での行進でしたが、みんなの心が一つになれば、笑顔あふれるものになりました。沿道からは約2万人が声援を送り、行進の様子はインターネットでライブ中継されました。



乙訓明社 芋掘りと清掃&BBQ ～晴天のもと交流を深める～

乙訓明社は10月8日(日)、芋掘りと小倉神社の清掃&BBQを実施しました。午前中の芋掘りには、明社非会員1名を含む19名が、午後からの小倉神社清掃とBBQには、明社非会員6名を含む28名が参加し、晴天の休日の一時、交流を深めました。



宗教から見た平和『現代世界と平和』～庭野開祖の法話より～

前回は、「現在世界と平和」についての庭野開祖の法話から、①宗教の目的は世界を平和に導き、いかなる人達も真に幸せになり、安心して生活のできる社会をつくること、②世界平和を実現させるためには、人類のひとりびとりが平和への回心（えしん）を遂げることだと、というところを学びました。30年以上前に説かれたものですが、今の時代でも通用するものだと感じました。（編集部）

◆闘争本能をよい方向に切り替える仏教

人間の闘争本能はいつまでもなくならないかもしれませんが、(1)「理性を高めることによって、その本能の暴発を抑制すること」は可能です。また、(2)「情緒を高めることによって、人を苦しめる行為を自ら嫌悪するように導くこと」も可能です。さらに、(3)「闘争本能を文化的な方面へ方向転換させることによって、逆に人類の進歩へ貢献させること」も考えられます。

仏教はこの三つの働きを促進させる本質を持っています。(1)縁起・諸行無常・諸法無我などの真理によって人々の理性を高め、(2)そうした真理の領得によって、必然的に万物・万人に対する深い愛情を育てるのが仏教です。さらに、(3)煩惱をそのまま活かして菩提と化す実践を教えるのが仏教です。それゆえ、仏教徒たるわれわれは、平和の問題について、決して絶望的な見方をしてはならないのです。

◆平和への取り組みについても内省を

われわれの宗教活動の場合も、真に人類の平和や幸福に貢献し得るものであるかどうかを常に反省する必要があります。そして、独善的な活動や、精神より形式を重んじた小乗的活動に陥らないよう、絶えず、宗教本来の精神を見つめていきたいものです。

そして、よりよき人間関係をつくり、協力関係を築き、社会を浄化し、政界を清め、政治、経済、社会の軋轢を除いていくことに努めなければならないと思います。

仏法は、時代とともに前進していくものです。新しい時代を担う人々の心の支えとなるための、革新への熱意と努力と勇気をいつも燃やし続けていかなければなりません。

本会が寛容の精神に立脚して力強く仏法を説き、そして、宗教的にも、政治的にも、優れた手腕と信仰心を持った立派な宗教人によって、現実の世界を見つめた活動が推し進められるようになってこそ、世界的な宗教団体として認められるものだと思います。

世界のあらゆる分野の指導者は、“心の改革”を忘れては、よりよき世界への希望があり得ないことを理解しています。そして、世界中のだれもが道義的、精神的な目覚めの必要なことを認めています。

宗教が心を向上させ、それによって一切の争いから人類を救済することができると思ふ、われわれ宗教人が、各自の置かれたそれぞれの立場で、自己の持つ能力を最高度に発揮して、世界の平和に貢献することこそ意義ある宗教生活と申せましょう。

人が変われば社会が変わるのです。

「自分が変わる」ことによって、世界を平和に導くため、まず自分自身を仏法によって人間改革していただきたいのです。

そして、新しい時代にふさわしい宗教団体として、現代人の心の支柱となり、平和への推進力となるために、われわれ宗教人は、日々の精進に努めたいと思います。

(つづく)

12～1月の主な教会行事

12月1日(金)	9:00～	朔日参り
4日(月)	9:00～	開祖さまご命日
5日(火)	9:00～	教会発足58周年記念式典
8日(金)	9:00～	成道会
10日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
13日(水)	18:00～	議員懇話会
15日(金)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
23日(土)	10:00～	教会大掃除
1月1日(祝)	6:30～	元旦参り
4日(木)	9:00～	開祖さまご命日
7日(日)	9:00～	御親教
10日(水)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(月)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
21日～28日	6:00～	寒中読誦修行

●メッセージ

この2か月間ほど、北朝鮮は動きを潜め、まるで嵐の前の静けさと思われるほどの情勢です。マスコミも今後について様々なシミュレーションをしているようですが、現段階では米国を中心とした北朝鮮包囲網が着実に進み、経済制裁は確実に効果があるという見方が主です。日本も米国に追随し、また今後も米国から多くの武器を購入しようとしています。いわゆる武力に対しては武力で対抗することが日本の「武器」であるとしています。先日、ある方との会話の中で、戦後70年、戦争放棄し、どの国とも交戦せず平和国家として歩んできた日本の「武器」は「対話による平和構築」だと教えて頂きました。北朝鮮に対して圧力をかけることで窮鼠(きゅうそ)猫を噛むことにならないよう、働きかけをお願いしたいものです。